

第1回特別活動研究部研修会研修会アンケートより

- 特別活動における目標や行事などに合わせた目標の立て方などを具体的に説明していただきとても参考になりました。教科指導ではオリエンテーションなどでその教科を学ぶ理由などを考えさせたり教師が伝えたりすることがありますが、特別活動とは何なのか、なぜやるのかなどを生徒に考えさせたり伝えたりする場面はほとんどありません。しかし、本日の講話で聞いた内容等を噛み砕きながら生徒会や行事の実行委員などに伝え、目標・目的をもって活動に取り組めるようにしたいと思います。
- 多様な他者の価値観や個性を受け入れ、助け合ったり協力し合ったり、よりよい人間関係を築こうとする態度を身に付けるために、特別活動がもつ意義は重要であると感じました。2学期に実施される二大行事（合唱コンクール、体育大会）の前準備を綿密に行い、生徒たちの学びに向かう力、人間性を育てていきたいと思います。
- 目標の明確化については、自分の考える目標は抽象的で具体性が無かったと感じました。より具体的に、どんな姿になりたいか、中学校においては3年間を通してどのように成長していったほしいのか、させたいのかを明確にする必要があると感じました。
- 目標設定の時には、「子供を主語にして具体的な姿を考える」ということが大切だと分かりました。様々な行事・活動の目標が形骸化されてしまっている部分もあると思います。責任をもって学び、そういったところを少しでも見直せるようにしたいと考えました。
- 目標を明確化するために「実態を捉えて具体的な子供の姿を想定すること」の大切さがよく分かりました。御紹介いただいた映像資料も活用していきたいと思います。
- 特別活動には、自主的な集団活動が求められますが、子供だけではうまくいかないことも多々あります。今回の研修を通して、自主的な活動だからといって放任するのではなく、子供たちが自主的な集団活動により積極的にかかわれるような支援をしていきたいと感じました。
- 映像資料で授業での話合いの進め方がよく分かりました。校内で多くの先生方に広めていきます。子供たちが自ら活動し成長する場を多く設けていきたいと思います。
- 教師が特別活動の目標を立てる際に、「子供が〇〇できるようになる」というように、子供を主語に具体的に考えることが大切だと改めて理解できました。教科指導だけでは足りない部分を補い、子供が成長できるように計画を立て、実践していきたいと思いました。

○具体化して子供の姿をイメージしながら特別活動を進めていく大切さを実感しました。特別活動を通して、子供の成長を支えていければと思いました。

○特別活動は、教科だけでは身に付けることのできない人格形成の教育の部分を身に付けると改めて感じました。

○個人の意思決定のためにも、学級で意見を共有することで、視野の広い考え方をもつことにもつながると感じました。映像資料についても、大人になっても学校の学びが生きていることに気付くことができると思うので、有効に活用していきたいと思います。

○特別活動は何のためにあるのか、改めて考えることができました。“教育の基盤をつくる”という言葉聞いて、特活は、学校で学んでいることを子供たちが活かしながら、目標や付けたい力に少しずつ近づいていき、全体が成長することができると思いました。

○何のための活動でどんな力を付けるためのものなのか、つつい見失ってしまいがちですが、目の前の子供の具体的な姿で考えることを意識していきたいと思います。

○児童に付けさせたい力を意識して、活動を計画、実践、振り返りをしていくことが大切だと実感しました。

○映像資料を活用したいと思います。

○特別活動こそ児童の自主性を育むことができると思います。(時間がかかってしまったり、うまく合意形成ができなかったりとたくさん失敗をしてきました。)小中高と系統性を分かった上で、指導していくことが大切だと感じています。

